

女性職人だけの会社をつくるのが私の夢

第24期生（1年生） 防水工 益永 真理子 さん

カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

Tel
03-
5950-1771



ノートをしっかり取る学習姿勢がクラスメイトに好影響を与えています。

4月3日（水）、東京建築カレッジは新しい仲間、第24期生 16人を迎えました。就職戦線の「超売り手市場」化（学生側に有利）などの影響から、ここ数年に比べ入学者数は減りましたが、建築のプロフェッショナルをめざし、翌日から元気に学んでいます。入学式で新入生を代表して挨拶した防水工、益永真理子さん（徳田工業）に抱負を聞きました。

◇入学の動機は？

独立したときに必要な知識を学べるというのが第一。それに、建築の世界に興味がありました。元彼が防水工だったので、私も防水の仕事をするようになったのですが、現場で作業するうちに、家がどのように造られているのか、知りたくなってきました。

◇将来の夢

女性の職人だけの会社をつくりたい。それはとてもカッコイイことだと思うんです。今の建設業界は女性の活躍を期待しているようですが、「女なんて使えない」と言う人はまだまだ多いです。そんな中、すごい勢いでしっかり仕事をする女性だけのチームをつくりたい。それってカッコイイじゃないですか。

不動産会社のリフォーム部門で働く

第24期生（1年生）新田 宰士さん



伝統的な日本建築の技術を身に付け、その技術を生かして、深刻な空き家対策に貢献すること、リフォームで茶室や欄間（らんま）を設けたり、日本建築の良さをできることから伝えていくことを考えて入学を決意しました。

集中授業は率直（そっちょく）言って厳しいです。家に帰って食事をし、お風呂に入って爆睡（ばくすい）する毎日です。一方、クラスメイトは自分の子どものような年齢の方々。若い方から声をかけてもらえるので、気持ちも若くなった気がします。肉体的な衰えや力の差を感じますが、修行だと思って頑張ります。

新田さんはミニ公開講座を通じて、建築カレッジに魅力を感じ、家族からの励ましも受けて思い切って入学しました。

空き家対策のため大工仕事を覚える

か。現場全体を活気づけることになると思います。私がめざしているのは、女性だけの総合建設会社の立ち上げ。学校で出会った人なども誘って仲間を増やしていきたいです。

最初怖かったけれど、正しい方を丁寧に教えてもら



「誰もが自由に語り合える環境をつくりましょう。より良い学習環境をつくるのは自分たち」。入学式では代表して決意表明しました。

◇集中授業について

毎日がすごく面白い。「木を使うのにも年輪などを観察して向きを判断しなくてはならない」など、たくさんエピソードを聞けて色々感動しています。大工手道具は使うのは最初怖かったけれど、正しい方を丁寧に教えてもら

◇当面の予定は

い、少しずつ上手くなっていることを実感できています。

第24期生の皆さん

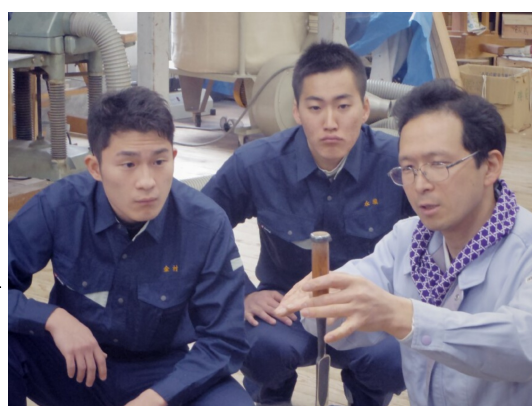
前列中央は小林学校長、
端は西岡貴之教務部長、
は須藤学事務局長次長、
後列右
同左端



前列左から、原田宙知さん、野上晟史さん、新田宰士さん、永瀧将也さん、岩崎海斗さん、益永真理子さん、松谷妃奈さん、本間美帆さん、平沼陸也さん、後列左から、金村太一さん、亀谷岬さん、佐藤有真さん、高松圭亮さん、高橋龍雅さん、寺田孝志さん、寺田有佑さん

建築の全体を
見通す第一歩

東京建築カレッジでは入学後すぐに約2週間の「集中授業」を行います。教育理念やその方法を橋本英夫教務運営委員が伝える一方、建築の仕事に欠かせない数学の復習授業などを受けます。一方、実技実習では、大工手道具の使い方や墨付け、基本的な継手や仕口づくりを体験します（右写真）。



本校は「学習目標」に記述しています。「2、道具を作れるようになること。大工道具の持つ生命を理解し、使用する」と、新しい生命を造り出せる「手」を作ること。図面を描くこととで、線に意味を持たせられるようになること」「3、道具を使えるようになること。道具の正しい使用法を学び、より美しい「手」を作ることが可能になること。各種の図面を使い、より立体的な考え方がより早く正確に形として表現できるようになること」

1年生の授業から

手道具の使い方、墨付け

うりょう）的人材を育成する土台に、手道具・手刻み教育を位置付けています。

大工以外にも
歓迎の声

設計や施工管理に従事する研修生からも歓迎されています。「木造の魅力がつかめた」「職人さんとの打ち合わせが円滑に進むようになった」という声が毎年出されています。

2年生の授業から

廻り階段

1年次の実技実習の総仕上げで実習棟の内法（うちのり）までを経験した後、2年次の冒頭、廻り階段の授業が始まります（＝写真）。ササウ階段による廻り階段を原寸図をしっかりと作成するところから学んでいきます。実習棟にも廻り階段を取りつけて、約半年間の実習棟実習は最終段階に達します。

5月以降は、型枠・鉄筋や左官、タイル、クロス、板金といった各職種の体験学習が行なわれます。

